

(事後評価)

**地域産学官連携型持続イノベーション・エコシステム拠点
： 科学技術駆動型イノベーション創出プレイヤー養成プログラム**

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：大阪府立大学（総括責任者：石井 実）

採択プログラムの概要

大阪府立大学が実施する「産業牽引型」高度人材育成システムや「ことづくり思考」の養成ツール（産学連携で実施するビジネス企画演習、課題設定型演習、戦略的システム思考力演習等の演習プログラム）にデザイン思考やアイディエーションスキルを導入し、起業家養成を実質化する演習を再構築する。アドバンストコース（科学技術政策立案、起業プランニング、社内ベンチャー企画、ファイナンシャルプラン、MOTコンサル演習、PBL海外インターンシップ）では、受講者個々の、研究成果を利用した実践演習を多角的にサポートするなど、イノベーション・エコシステムを有機的にそしてシームレスに形成し、以下 3 点を特徴とする拠点を構築する。

- ・ 高度研究者を実質的な起業家として育成することに特化
- ・ 行政、府立産業技術総合研究所、地域企業など地域産学官との連携に立脚したイノベーション拠点
- ・ 研究成果の事業化のための「活きた」実践演習のサポート体制とその持続的事業化支援

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の 妥当性	補助事業期間 終了後における 取組の継続性 ・ 発展性
A	a	a	a	s

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長をリーダーとする運営体制の下、産学協同高度人材育成センターを設立し、基礎から実践までの多様な科目を正規科目として開講したことは評価できる。国内外の大学、地域の行政機関、金融機関、民間企業等を巻き込んだイノベーション・エコシステムを形成し大学が地域の拠点となる基盤を着実に築き、大学教員による起業を達成したことは評価できる。

・ **目標達成度**：従来実施していた MOT 教育等を活用して 3 つのコースからなる実践的演習科目を整備し、アイディエーションワークショップ（i-WS）を頻繁に開催している。受講者数は当初計画を大幅に超える延べ 249 名を確保し、各種イベントに延べ 1000 人以上の参加者を達成し、イノベーションの実践者の母集団拡大に貢献している。高度研究者を実質的な起業家に育成する基盤

を整え、大学教員による起業を2件達成し、大学の研究成果の活用を図っていることは評価できる。

・**成果**：共通科目、個別演習コース、アドバンストコースの実践的演習科目から構成されるカリキュラムを整備している。企業等の個別課題をテーマとして取り上げ、海外および域内の大学・行政・企業等との連携システムの進化を達成しており、さらに同窓会も参画していることは評価できる。受講者として、博士後期課程学生が29名、教職員が22名と多数参加している。大学の研究成果の社会実装の基盤を構築しており、実際に教員による起業を達成している。また、高校生向け次世代起業家育成講座、シリコンバレークラス、アジアライブストリーム、テックソンなど当初計画にないイベントを実施し成果をあげており評価できる。

・**計画・手法の妥当性**：学長をリーダーとする全学の意思決定機関である「科学技術人材育成ステアリング委員会」のガバナンスの下にプログラムが推進されている。プログラム運営委員会組織を産学協同高度人材育成センター内に組織し、外部アドバイザー委員会を設けてPDCAを回している。日常的な課題解決は企画推進委員会が行っている。プログラムは近畿域内の大学とノウハウを共有し、韓国を含む他大学へ普及させている。

・**補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性**：大学執行部のリーダーシップの下、大学の第3期中期計画に明記しているように、EDGEプログラムで開発したPBL科目群を全学大学院共通課程の正規科目として位置づけ、平成29年度予算において既に自己資金を確保しているなど、継続性・発展性の確保が具体的に進められていることは高く評価できる。地域産学官連携型の持続的イノベーション・エコシステムができており、今後は社会人受講者を継続的に有料で受け入れるなど外部資金確保によるさらなる発展を期待する。